

決算

令和2年度の町の決算がまとまりました。昨年度1年間、町のお金がどのように使われたのかお知らせします。

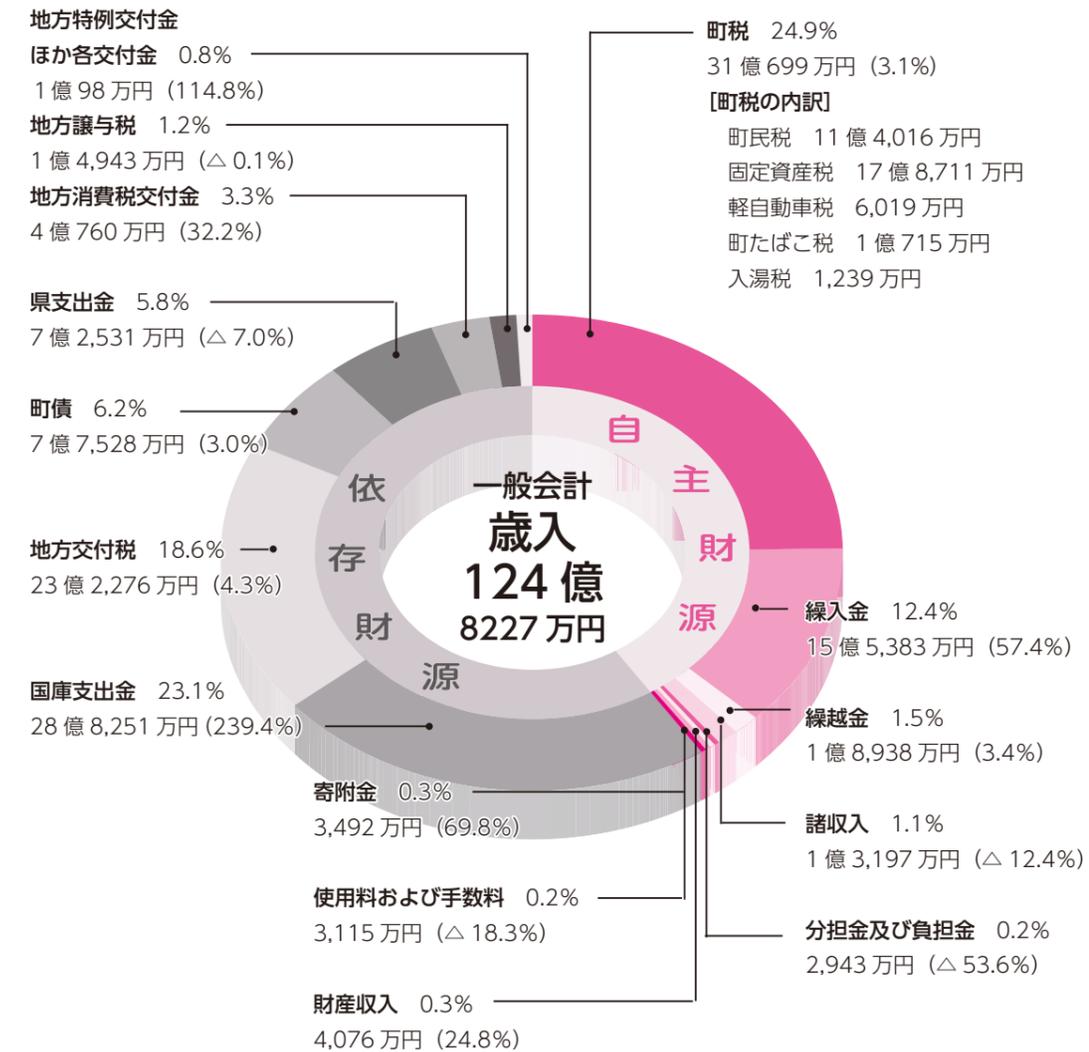
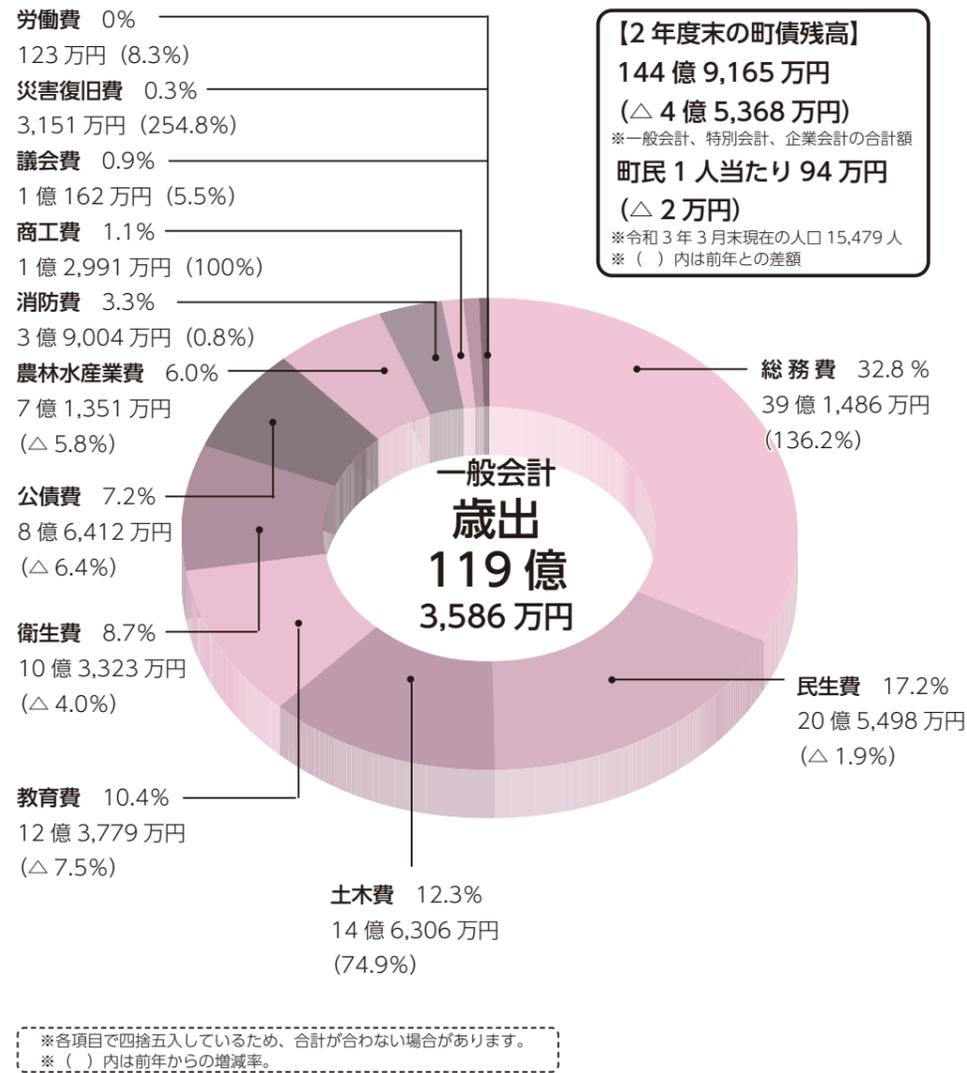
令和2年度一般会計
決算の説明

【歳入】

- ▶町税…町民税、固定資産税の増
- ▶国庫支出金…特別定額給付金事業費補助金、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の増
- ▶地方交付税…普通交付税の増
- ▶県支出金…畜産クラスター事業補助金の減
- ▶町債…一の台住宅団地法面対策工事、町道舗装補修事業等による増

【歳出】

- ▶総務費…特別定額給付金、一の台住宅団地法面対策工事、電算管理費等の増
- ▶民生費…前年度事業（プレミアム付商品券事業）やすこやか子ども基金積立金の減
- ▶土木費…橋梁長寿命化事業や町道舗装補修事業、除雪対策費の増
- ▶教育費…前年度事業（南方幼稚園増改築工事、学校教育施設エアコン設置工事）の減
- ▶衛生費…ごみ焼却施設長寿命化に伴う負担金の減
- ▶農林水産業費…前年度事業（畜産クラスター事業補助金、肉用牛繁殖センター施設整備事業補助金）の減



特別会計・企業会計の決算状況

町には特定の収入を特定の支出に充てて一般会計とは別に経理する特別会計がありますが、特別会計はすべて黒字で運営されています。

また、町には公営企業会計として水道事業会計と下水道事業会計があり、水道事業会計については、収益的収支で3,158万円の純利益を計上しており、安定した経営となっています。下水道事業会計については、収益的収支で1億7,187万円の純利益を計上しましたが、資本的収支では3億5千万円もの不足となっており、厳しい経営状況となっています。

▶令和2年度特別会計の決算額

特別会計名	歳入	うち一般会計繰入額		歳出
		歳入	歳出	
国民健康保険	13億6,994万円	1億555万円		13億3,755万円
訪問看護ステーション	2,883万円	774万円		2,727万円
介護保険	介護保険事業勘定	15億465万円	2億2,830万円	14億6,016万円
	介護サービス事業勘定	395万円	48万円	394万円
国民健康保険診療施設	医科勘定	3億9,209万円	1億4,924万円	3億6,018万円
	歯科勘定	6,206万円	1,863万円	5,553万円
後期高齢者医療	1億4,572万円	4,054万円		1億4,505万円
合計	35億724万円	5億5,048万円		33億8,968万円

▶令和2年度企業会計の決算額

企業会計名	収入	うち一般会計繰入額		支出
		収入	支出	
水道事業	収益的収支(税抜)	3億7,860万円	2,586万円	3億4,702万円
	資本的収支(税込)	454万円	454万円	5,846万円
下水道事業	収益的収支(税抜)	8億7,921万円	3億7,615万円	7億734万円
	資本的収支(税込)	3億4,124万円	3,500万円	6億9,302万円

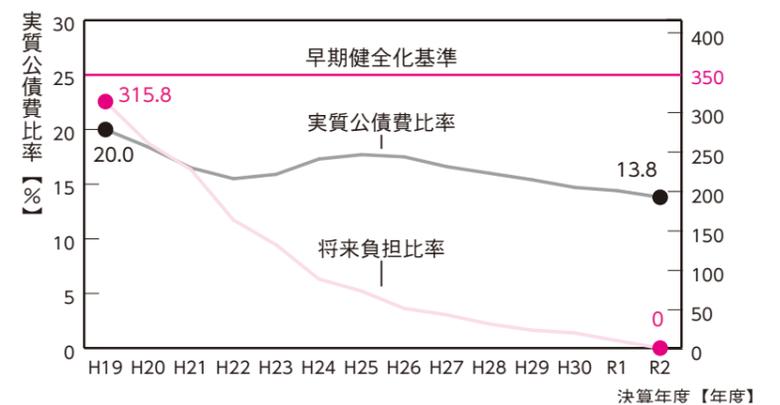
※資本的収支で収入が支出に対して不足する額については、収益的支出の「減価償却等の非現金支出(損益勘定保留資金)」や前年度からの繰越資金、当年度純利益などで補填しています。

町の財政状況 各指標とも早期健全化基準をクリア

自治体の財政状況をチェックし、財政破綻を未然に防ぐため、国は平成19年、いわゆる財政健全化法を定めました。この法律では財政指標により自治体の財政状況をチェックし、基準(早期健全化基準など)を上回った自治体には、財政運営に当たり様々な制約が課せられます。

町の令和2年度決算に基づく指標は「早期健全化基準」を下回っており、財政状況は健全であると言えますが、高齢化に伴う社会保障関係経費の増加や施設の老朽化対策など厳しい財政状況が予想されることから、限られた財源を有効に活用しながら財政運営の健全性を維持していく必要があります。

グラフ 主な財政指標の推移



【用語説明】

- ▶**実質公債費比率**…年間の借金返済額が町の標準的な年間収入の何%に当たるかを示したものの過去3年間の平均値
- ▶**将来負担比率**…現在の借金総額等が町の標準的な年間収入の何%に当たるかを示したものの